

トビウオ通信 (H21 第 2 号)

http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/ (TEL 0855-22-1720)

《平成 20 年漁期前半の底びき網漁業の動向》

小型底びき網漁業 (かけまわし)

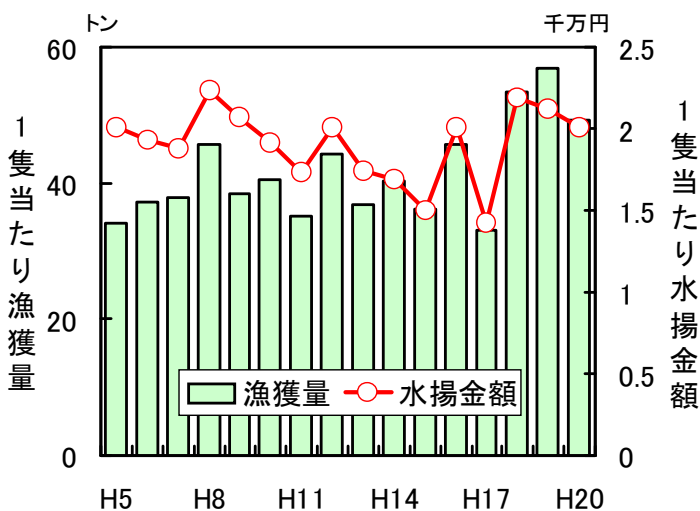


図 1 小型底びき網漁業における 1 隻当たり漁獲量・水揚金額の動向

1 隻当たり漁獲量、金額ともに平年を上回る

島根県の小型底びき網漁業(かけまわし)55 隻*の平成 20 年漁期前半(平成 20 年 9 月 1 日～12 月 31 日)の総漁獲量は 2,705 トン、総水揚金額は 11 億 441 万円でした。1 隻当たり漁獲量は 49 トン、水揚げ金額は 2,008 万円といずれも前年(57 トン、2,122 万円)を下回りましたが、平年(過去 10 年間の平均値 42 トン、1,833 万円)を上回りました(図1)。今期は休漁明け当初から大型クラゲの来遊がほとんどなく順調に操業を行え、出漁日数も平年並みでした。

* 当漁業における島根県全体の操業隻数は 56 隻ですが、統計は 55 隻分の集計です。

カレイ類、前漁期を下回る

主要魚種であるソウハチの 1 隻当たり漁獲量は 7.3 トンで、前年の 7 割に留まりましたが、平年の 1.7 倍の漁獲がありました。一方、ムシガレイの 1 隻当たり漁獲量は 2.9 トンで、前年、平年を 2～3 割上回りました。またメイタガレイの 1 隻当たり漁獲量は 0.4 トンで、前年・平年を大きく下回りました。ヤナギムシガレイの 1 隻当たり漁獲量は 0.6 トンで前年・平年の 8 割程度の漁獲に留まっています。

ケンサキイカ、秋漁好調!

ケンサキイカの 1 隻当たり漁獲量は 2.0 トンで、前年の 2 倍の漁獲がありました。また、ヤリイカの 1 隻当たり漁獲量は 1.8 トンで、平年を 3 割上回りました。

アンコウ・キダイ低調

ニギスの 1 隻当たり漁獲量は 8.4 トンで、前年を上回り、平年の 1.6 倍の漁獲がありました。アカムツの 1 隻当たり漁獲量は 1.4 トンで、前年を 54%、平年を 24% 上回りました。一方、キダイの 1 隻当たり漁獲量は 4.0 トンで、前年を下回り、前年の 6 割、平年の 8 割の漁獲に留まりました。また、近年高水準で推移していたアンコウの 1 隻当たり漁獲量は 4.4 トンで、平年を上回りましたが、前年の 6 割の漁獲に留まりました。また、近年漁獲量の多いマダラの 1 隻当たり漁獲量は 1.3 トンで、前漁期(1.4 トン)に引き続きまともな漁獲されました。このほか、イボダイはエチゼンクラゲの来遊が少なかった影響により漁獲量が急減し、1 隻当たり漁獲量は 0.4 トンで、前年の 1/4 の漁獲に留まりました。

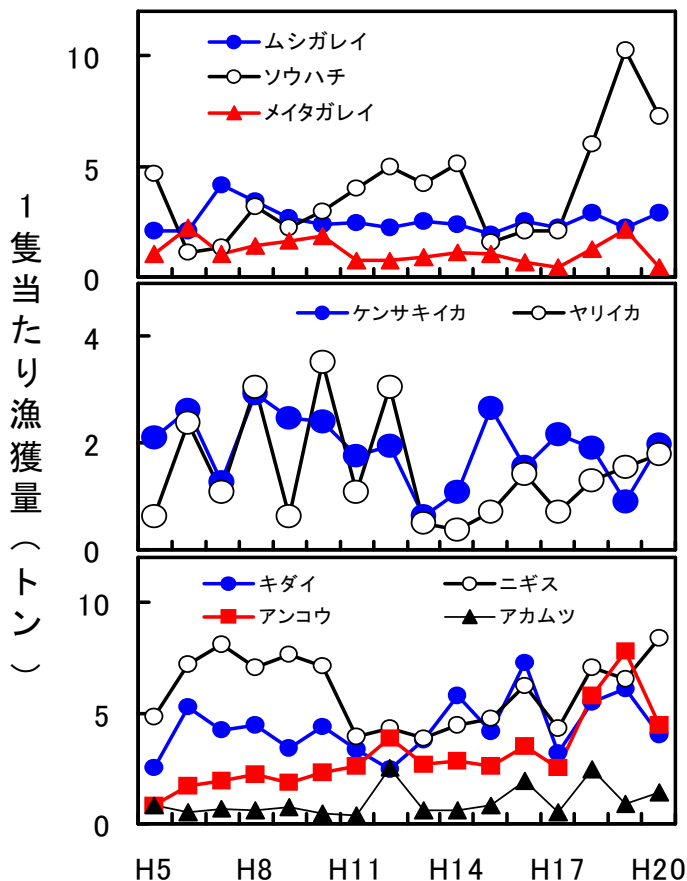


図 2 小型底びき網漁業における主要魚種の動向

沖合底びき網漁業（2艘びき）（県西部）

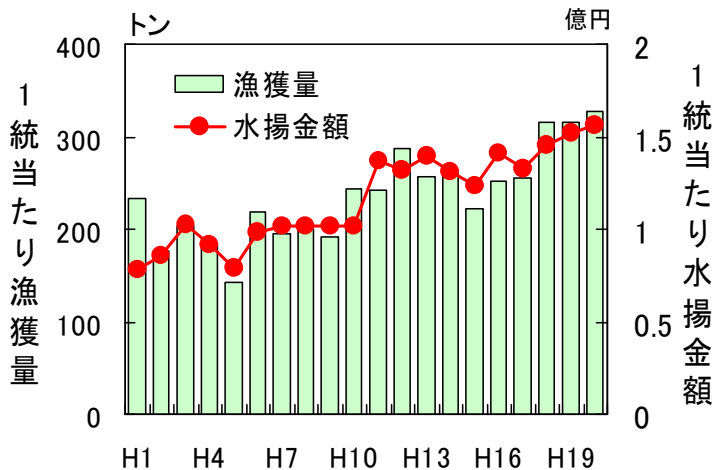


図3 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における1統当たり漁獲量と水揚金額の動向

1 統当たり漁獲量・金額は前年並み

浜田港を基地とする沖合底びき網漁業(5ヶ統)の平成20年漁期前半(平成20年8月16日～12月31日)の総漁獲量は1,637トン、総水揚金額は7億7,948万円でした。1統当たりでは、漁獲量327トン、水揚げ金額1億5,590万円で、ほぼ前年(316トン、1億5,191万円)並みで、平年(過去10年平均 265トン、1億3,360万円)を2割程度上回りました。

主要魚種であるカレイ類が堅調だったことに加え、ケンサキイカが好調だったことが主な要因と考えられます。

カレイ類堅調！

主要魚種であるムシガレイの1統当たり漁獲量は67トンで、前年を約2割、平年を4割上回りました。休漁明けから安定した漁獲があり、大型魚・小型魚とも好調に推移しました。前年漁獲量が急増したソウハチですが1統当たり漁獲量は31トンで、前年の8割に留まりましたが、平年の約2倍の漁獲がありました。また、ヤナギムシガレイの1統当たり漁獲量は11トンで、前年の7割、平年の約8割に留まりました。ソウハチでは銘柄「バラ」の小型魚が、ヤナギムシガレイでは銘柄「立」の大きいサイズの漁獲減少が影響しました。

ケンサキイカ 秋漁好調！

ケンサキイカの1統当たり漁獲量は33トンで、前漁期の2.5倍、平年の1.7倍と、久しぶりに秋漁が好調に推移しました。一方、ヤリイカの1統当たり漁獲量は3トンで、前年の4割、平年の約9割に留まりました。

アンコウ・キダイ低調！

H1 漁期以降、漁獲量が増加していたアンコウの1統当たり漁獲量は20トンで、平年並みではありませんでしたが、前年の6割に留まりました。アナゴの1統当たり漁獲量は18トンで、平年をやや下回りました。キダイは小型魚(シバ)の漁獲が大きく減少し、1統当たり漁獲量は19トンで、前年を2割下回りました。アカムツの1統当たり漁獲量は7トンで、前年を5割上回りました。また、ニギスの1統当たり漁獲量は16トンで、前年の8割程度の漁獲に留まりました。このほか、11月下旬～12月下旬にかけて冷水性のマダラが漁獲され、31トンの水揚げがありました。元沖底船長の話によると、「このようにまとまって漁獲されたのは始めて見た！」ということですので、過去最高の水揚げではないかと思われます。また、エチゼンクラゲの来遊とともに近年漁獲量が増加していたイボダイ(地方名:シス)ですが、今漁期は漁獲量が大きく減少し、19トン(前年・平年比:31%)の水揚げに留まりました。

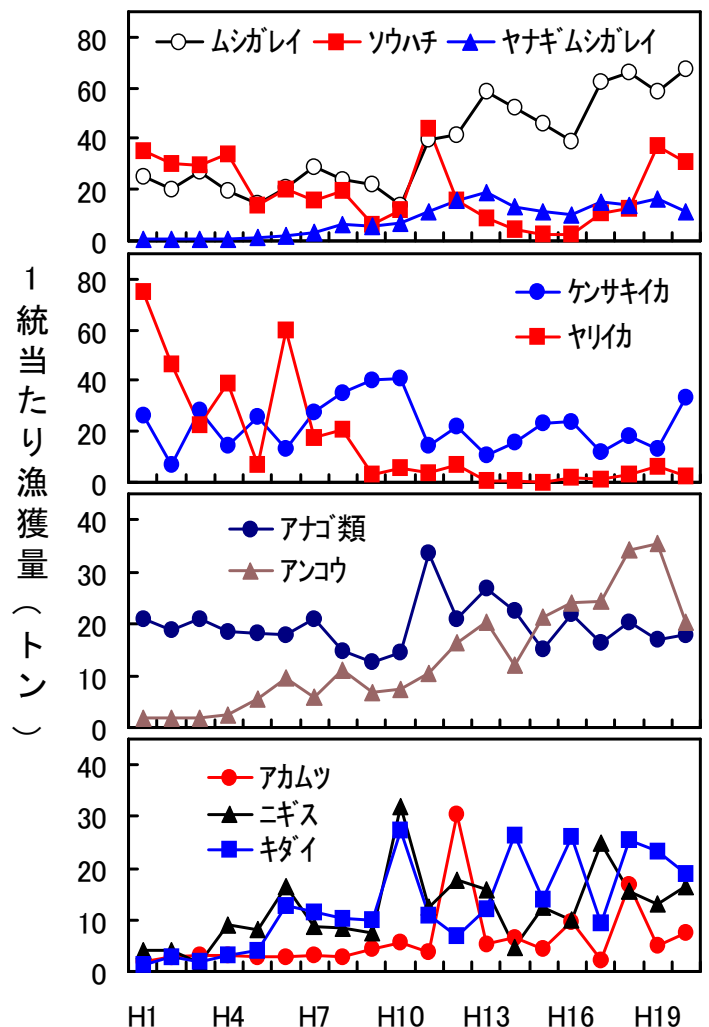


図4 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における主要魚種の動向